

**「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」  
仮中間評価記入票**

委員名

代表校	東北大学
取組名称	創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム
選定時の選定理由及びコメント	<p>&lt;中核拠点&gt; 本取組は、連携校の特色や専門性を活かした充実度の高いカリキュラムとなっているとともに、多様な職種で必要とされる資質・能力を教育できる実務家教員を養成し得る点で汎用性・普遍性が高い事業計画となっている。 特に、ルーブリックによる成績評価や到達度を示すポートフォリオ評価を活用するなど、修了者の質保証や学習成果の可視化が可能な計画となっている点は高く評価できる。 上記の点に加えて、e-ラーニングで修得する内容と、体験型学習で行う内容について、それぞれの目的と達成度設定が階層（段階設定）毎に明確となっている点も高く評価できることから中核拠点として選定する。</p> <p>&lt;運営拠点&gt; 本取組は、各連携校の専門分野を活かし、運営拠点としてセンター的役割を担えるだけの体制が整備されており、実行性の高い事業計画となっている。 特に、中核拠点以外の大学等における研修プログラム講師の養成研修を計画している点は高く評価できる。 また、上記の点に加えて、多様な企業や自治体等の参画が予定されており、全国的な広がりを持つ連携体制が整備された計画となっていることから運営拠点として選定する。</p> <p>なお、以下は審査委員会による改善に向けたコメントであり、早急に具体的な対応について検討すること。</p> <p>&lt;中核拠点&gt; ・担当教員の負担軽減や労働環境への配慮の具体的方策を早急に検討すること。 ただし、実務家教員には実践的な教育経験が重要であることに鑑み、過度にオンライン教育に偏ったプログラムにならないよう留意すること。</p> <p>・各コースに共通する体験型学習が、教育イノベーター実践演習科目における12時間のみであり、受講者自身の実践的な体験の振り返り、および講義実践に対する十分な振り返りを行うには十分な時間が確保されているのか懸念される。実現しようとする目標に見合うよう、プログラム全体の修了時間数の長期化を含めて再度検討するとともに、修了時間が長期化した場合でも、社会人（受講者本人）を惹きつけるだけの魅力があるプログラムを構築することを期待する。</p> <p>・企業への受講者派遣のアプローチを行う場合においても、企業側のメリットとともに、受講者本人のキャリアにおいて十分なメリットが感じられるプログラムを構築することを期待する。</p> <p>&lt;運営拠点&gt; ・連携する中核拠点から財政負担を求めるにあたっては、実現可能性に留意し、各中核拠点と十分に調整を行うこと。</p> <p>・実務家教員育成プログラムが全国に展開するための具体的な普及方策について早急に検討すること。</p> <p>・十分なマッチングを実現するため、大学側における活躍の場を多様な形で確保していくための取組やマッチングシステムの具体的な運用方策等を検討すること。</p>

## 【選定時のコメントへの対応】

取組実施校への伝達事項案（改善を求める留意事項等）

【評価の項目・観点への対応】

項番	項目	観点	取組実施校への伝達事項案（評価すべき事項、改善を求める留意事項等）
1	体系的かつ効果的な教育研修プログラムの開発	実社会に則した課題発見・解決型の学習や、最先端理論等に関する学習等を組み合わせた教育プログラムと、その実施に必要な質の高い研修プログラムが実施されているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
2	連携体制の構築	産学が共同して人材育成を推進するコンソーシアムが効果的に機能するよう、代表校を中心として連携校や企業等との定期的な対話の場を設けるなど連携体制や事業の運営体制・マネジメント体制が構築されているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
3	社会のニーズに応える工夫	社会の要請に応えることが可能となる工夫がなされているか。また、働きながら研修プログラムを受講することができるよう工夫がなされているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
4	自己評価・外部評価体制の構築	研修プログラムの受講者やその修了者による授業を受けた学生のアンケートの活用等による自己評価の体制が構築されているか。また、連携校以外の大学等や産業界等の有識者などの第三者による外部評価を行う体制が構築されているか。自己評価と外部評価の結果を反映して改善を行う具体的な仕組みが構築されているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
5	補助期間終了後の取組	補助期間終了後も発展的かつ継続的な活動を行う計画の実現に向けて、予定どおり実施しているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
6	運営拠点の取組 ※運営拠点のみ	運営拠点として、各中核拠点との連携・取りまとめを適切に実施しているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】

**「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」  
仮中間評価記入票**

<b>委員名</b>	
------------	--

<b>代表校</b>	<b>社会情報大学院大学</b>
<b>取組名称</b>	実務家教員COEプロジェクト
<b>選定時の選定理由及びコメント</b>	<p>&lt;中核拠点&gt; 本取組は、特に差し迫った課題である専門学校等における実務家教員の質向上を主な目的としたものであり、社会のニーズを的確にとらえた事業計画となっている。 特に、「実践知」を教育可能な「形式知」に変換し体系化する能力と、適切な授業方法で指導できる能力を育成するための仕組みは高く評価できる。 また、上記の点に加えて、実務家教員の認証評価・更新制度の運用を計画しており、実務家教員の質を保証する取組であるとともに、高等教育全体の質の向上に有効な取組であることから中核拠点として選定する。</p> <p>&lt;運営拠点&gt; 本取組は、実務家教員養成課程に関する認証評価制度の運用により、研修プログラムの標準化と質の向上を図る計画となっていることは評価できる。 一方、本事業の成果は、高等教育機関全般に普及されることが期待されているにも関わらず、講師やプログラム内容を見る限り、本取組は特定の大学や専門学校を主たる対象としている。すべての高等教育機関に汎用性ある普及策を展開する体制としては不十分である。 以上の理由等により運営拠点として選定しないが、今回の指摘等を踏まえ、さらに検討を重ねて、本取組を充実していくことを期待したい。</p> <p>なお、以下は審査委員会による中核拠点の取組についての改善に向けたコメントであり、早急に具体的な対応について検討すること。</p> <p>&lt;中核拠点&gt; ・養成する実務家教員の人材像において主として想定している受講者、つまり豊富な実務経験を有する者にとって、十分に有益なプログラムとなるよう、履修資格の設定や履修者受入時の審査の厳格化等について再検討すること。 ・担当教員の高等教育現場での教育経験が少ないため、実務家教員を養成するための教育を十分になし得るか懸念される。このため、担当教員に対するファカルティ・ディベロップメントにおいて、教育経験の少なさを補てんする仕組みを早急に整え、実施すること。 ・修了要件となる「模擬講義Ⅰ／Ⅱ」の演習における教員の評価に関して、客観的な評価基準をあらかじめ明確にすること。</p>

**【選定時のコメントへの対応】**

取組実施校への伝達事項案（改善を求める留意事項等）

【評価の項目・観点への対応】

項番	項目	観点	取組実施校への伝達事項案（評価すべき事項、改善を求める留意事項等）
1	体系的かつ効果的な教育研修プログラムの開発	実社会に則した課題発見・解決型の学習や、最先端理論等に関する学習等を組み合わせた教育プログラムと、その実施に必要な質の高い研修プログラムが実施されているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
2	連携体制の構築	産学が共同して人材育成を推進するコンソーシアムが効果的に機能するよう、代表校を中心として連携校や企業等との定期的な対話の場を設けるなど連携体制や事業の運営体制・マネジメント体制が構築されているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
3	社会のニーズに応える工夫	社会の要請に応えることが可能となる工夫がなされているか。また、働きながら研修プログラムを受講することができるよう工夫がなされているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
4	自己評価・外部評価体制の構築	研修プログラムの受講者やその修了者による授業を受けた学生のアンケートの活用等による自己評価の体制が構築されているか。また、連携校以外の大学等や産業界等の有識者などの第三者による外部評価を行う体制が構築されているか。自己評価と外部評価の結果を反映して改善を行う具体的な仕組みが構築されているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
5	補助期間終了後の取組	補助期間終了後も発展的かつ継続的な活動を行う計画の実現に向けて、予定どおり実施しているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
6	運営拠点の取組 ※運営拠点のみ	運営拠点として、各中核拠点との連携・取りまとめを適切に実施しているか。	

**「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」  
仮中間評価記入票**

委員名	
-----	--

代表校	名古屋市立大学
取組名称	PBLと多職種連携を活用した進化型実務家教員養成プログラム(TEEP: Training for Emerging Educators and Practitioners)構築事業
選定時の選定理由及びコメント	<p>本取組は、受講者にとっての学びの成果や、連携大学間の役割分担、修了時の目標設定が明確であり、実行性の高い事業計画となっている。特に、地域で予測される課題に対応するためのコース設定となっている点、多職種連携型PBLを主体としたカリキュラムを構想している点は高く評価できる。</p> <p>また、上記の点に加えて、「実務領域診断カルテ」により、受講者自身の実務経験の体系化・構造化が可能になるとともに、実務家教員の能力を効果的・客観的に評価できる計画となっていることから中核拠点として選定する。</p> <p>なお、以下は審査委員会による改善に向けたコメントであり、早急に具体的な対応について検討すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者が自らの実務体験をリフレクションする機会について、プログラム受講前の実施に限定せず、受講期間中を通して実施できる指導体制を充実させること。</li> <li>・「進化型」「エバンジェリスト」という名称については、全国に普及させるという観点から受講者や広く社会に対して十分な理解が得られる表現であるか、再検討すること。</li> <li>・学部学生向けの教育やリカレント教育との違いがやや不明確である。実務家教員となり得る者に必要な教育上の知識や能力が十分に身に付けられるプログラムとなるよう、再度検討すること。</li> </ul>

**【選定時のコメントへの対応】**

取組実施校への伝達事項案（改善を求める留意事項等）

【評価の項目・観点への対応】

項番	項目	観点	取組実施校への伝達事項案（評価すべき事項、改善を求める留意事項等）
1	体系的かつ効果的な教育研修プログラムの開発	実社会に則した課題発見・解決型の学習や、最先端理論等に関する学習等を組み合わせた教育プログラムと、その実施に必要な質の高い研修プログラムが実施されているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
2	連携体制の構築	産学が共同して人材育成を推進するコンソーシアムが効果的に機能するよう、代表校を中心として連携校や企業等との定期的な対話の場を設けるなど連携体制や事業の運営体制・マネジメント体制が構築されているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
3	社会のニーズに応える工夫	社会の要請に応えることが可能となる工夫がなされているか。また、働きながら研修プログラムを受講することができるよう工夫がなされているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
4	自己評価・外部評価体制の構築	研修プログラムの受講者やその修了者による授業を受けた学生のアンケートの活用等による自己評価の体制が構築されているか。また、連携校以外の大学等や産業界等の有識者などの第三者による外部評価を行う体制が構築されているか。自己評価と外部評価の結果を反映して改善を行う具体的な仕組みが構築されているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
5	補助期間終了後の取組	補助期間終了後も発展的かつ継続的な活動を行う計画の実現に向けて、予定どおり実施しているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
6	運営拠点の取組 ※運営拠点のみ	運営拠点として、各中核拠点との連携・取りまとめを適切に実施しているか。	

**「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」  
仮中間評価記入票**

<b>委員名</b>	
------------	--

<b>代表校</b>	舞鶴工業高等専門学校
<b>取組名称</b>	KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築
<b>選定時の選定理由及びコメント</b>	<p>本取組は、受講者にとっての学びの成果や、連携大学間の役割分担、修了時の目標設定が明確であり、実行性の高い事業計画となっている。特に、地域で予測される課題に対応するためのコース設定となっている点、多職種連携型PBLを主体としたカリキュラムを構想している点は高く評価できる。</p> <p>また、上記の点に加えて、「実務領域診断カルテ」により、受講者自身の実務経験の体系化・構造化が可能になるとともに、実務家教員の能力を効果的・客観的に評価できる計画となっていることから中核拠点として選定する。</p> <p>なお、以下は審査委員会による改善に向けたコメントであり、早急に具体的な対応について検討すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リカレントプログラムの運営に重点が置かれているため、実務家教員の育成について一層充実を図ること。その際、実務経験を有する者に対する教育方法として、放送大学等オンライン講座の活用で十分に対応し得るのか、実践的な学習とのバランスに留意した計画を作成すること。</li> <li>・補助期間終了後、構築した人材育成システムをバックアップする組織については、国立高等専門学校機構や既存の体制の活用も含めて多角的な可能性を検討し、実現可能性・継続性の高い体制を維持できるよう計画すること。</li> </ul>

**【選定時のコメントへの対応】**

取組実施校への伝達事項案（改善を求める留意事項等）

【評価の項目・観点への対応】

項番	項目	観点	取組実施校への伝達事項案（評価すべき事項、改善を求める留意事項等）
1	体系的かつ効果的な教育研修プログラムの開発	実社会に則した課題発見・解決型の学習や、最先端理論等に関する学習等を組み合わせた教育プログラムと、その実施に必要な質の高い研修プログラムが実施されているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
2	連携体制の構築	産学が共同して人材育成を推進するコンソーシアムが効果的に機能するよう、代表校を中心として連携校や企業等との定期的な対話の場を設けるなど連携体制や事業の運営体制・マネジメント体制が構築されているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
3	社会のニーズに応える工夫	社会の要請に応えることが可能となる工夫がなされているか。また、働きながら研修プログラムを受講することができるよう工夫がなされているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
4	自己評価・外部評価体制の構築	研修プログラムの受講者やその修了者による授業を受けた学生のアンケートの活用等による自己評価の体制が構築されているか。また、連携校以外の大学等や産業界等の有識者などの第三者による外部評価を行う体制が構築されているか。自己評価と外部評価の結果を反映して改善を行う具体的な仕組みが構築されているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
5	補助期間終了後の取組	補助期間終了後も発展的かつ継続的な活動を行う計画の実現に向けて、予定どおり実施しているか。	【評価すべき事項】
			【改善を求める留意事項等】
6	運営拠点の取組 ※運営拠点のみ	運営拠点として、各中核拠点との連携・取りまとめを適切に実施しているか。	